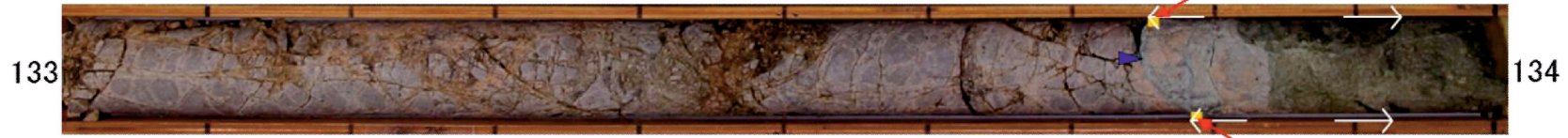


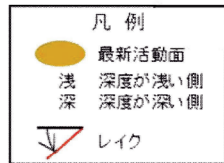
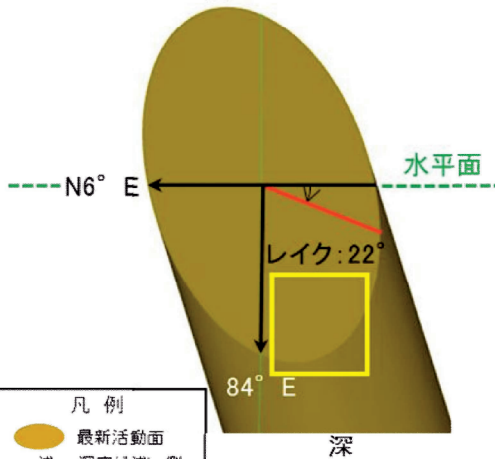
H27-B-2 深度133.75~133.92m 最新活動面の走向・傾斜 (No.77) に基づき条線方向 (No.78) を変更

- H27-B-2孔 深度133.75mの断層面の走向・傾斜はN6°E84°Eであり、22Lの条線が認められる。

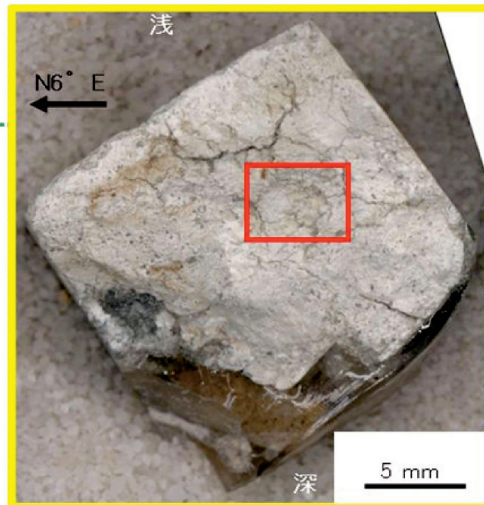
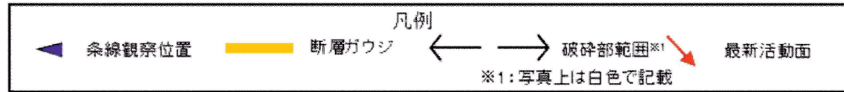
コア写真



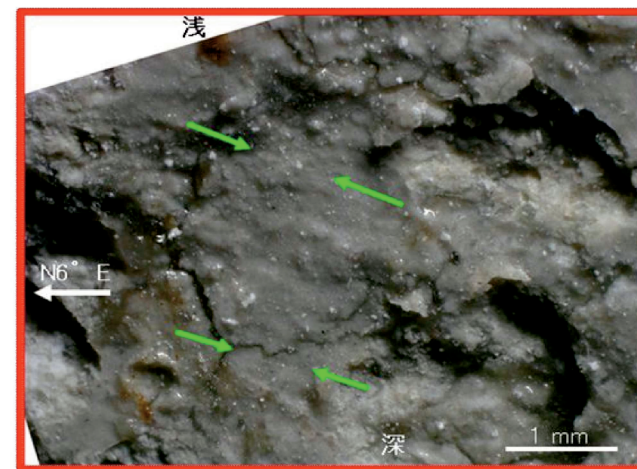
※下盤側から観察



・前頁の図3に、計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。  
 ・下盤側から最新活動面を見た模式図のため、レイクがR方向に描かれているが、数値は上盤側から見た22Lとなる。



条線観察位置拡大



赤枠内拡大

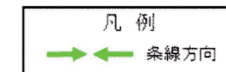


図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

H27-B-2 深度133.75~133.92m 最新活動面の走向・傾斜 (No.77) に基づき条線方向 (No.78) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例  
 ← → 破碎部範囲\*  
 ※: 写真上は白色で記載  
 ↘ 最新活動面

研磨片写真(斜めから)



0 5 cm

凡例  
 ↖ 試料切断方向

条線観察位置



0 5 cm

凡例  
 ↙ 条線観察位置

研磨片作製位置



青枠部拡大

0 5 cm

凡例  
 ↘ 最新活動面

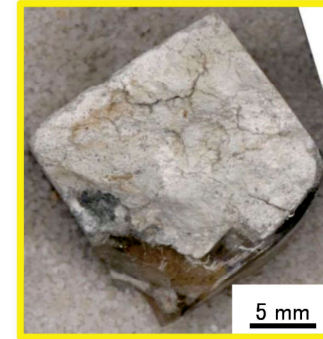
試料切断面



0 5 cm

凡例  
 ↘ 最新活動面

条線観察位置拡大



黄枠部拡大

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・走向・傾斜をN12E66Eに変更 (No.79)

【理由】再観察の結果、破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN12E66Eと判断した。

・条線方向を82Lに変更 (No.80)

【理由】走向・傾斜の変更 (No.79) により、基準方位が変わることに伴う変更

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

- a 走向・傾斜の記載を「N12E66E」に変更 (No.79)
- b 条線方向の記載を「82L」に変更 (No.80)
- c 見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づく図に変更 (No.79,80)





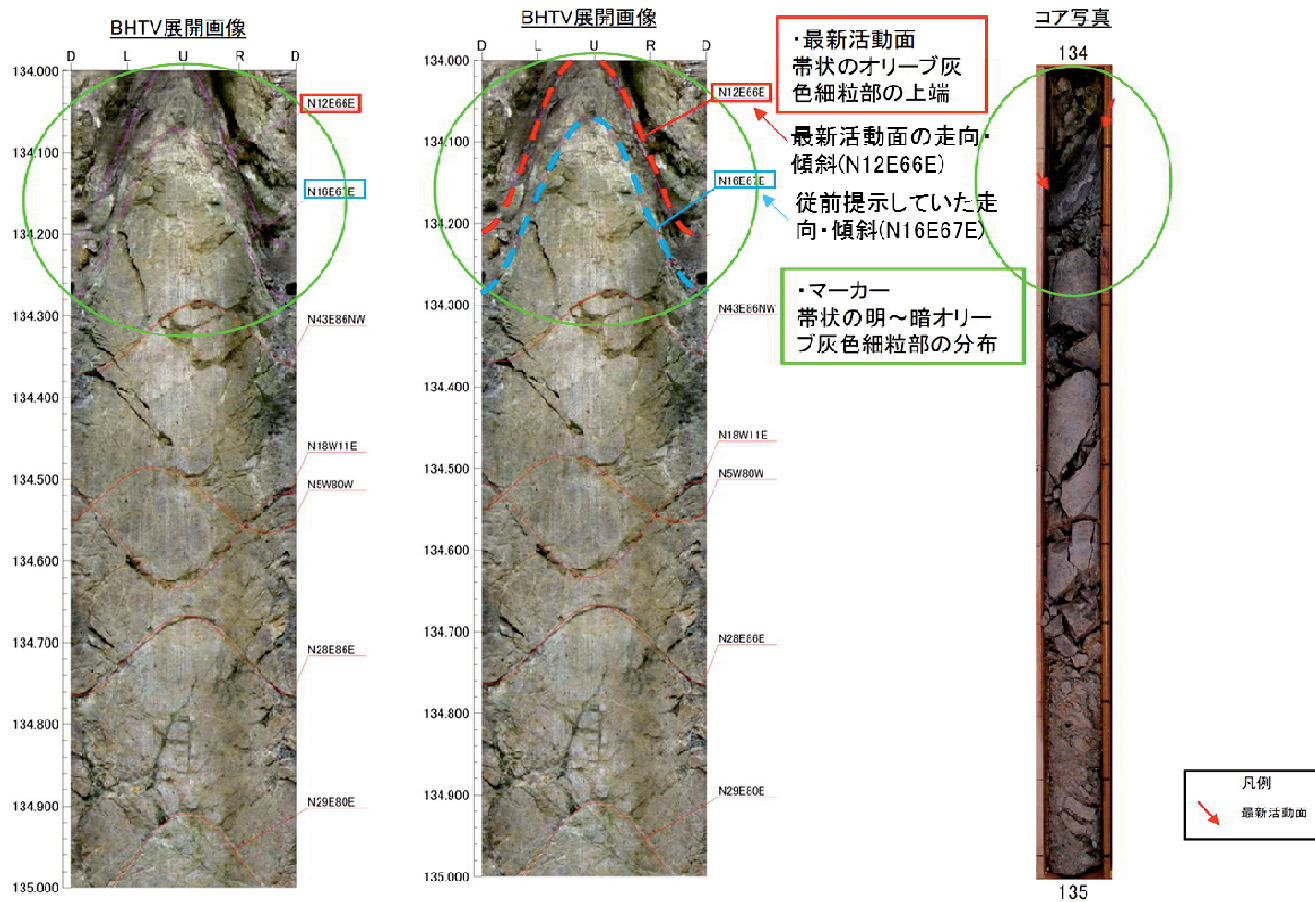


H27-B-2 深度134.15~134.23m 最新活動面の走向・傾斜 (No.79) を変更

・ 従前提示していたデータでは、性状一覧表にN16E67Eと記載していたが、BHTV展開画像からの走向・傾斜を読み誤っていたことから以下のとおり走向・傾斜をN16E67E からN12E66Eに変更した。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-2 深度134.15~134.23m)

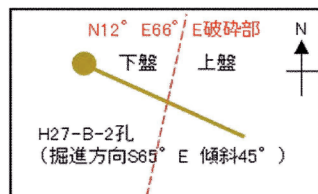
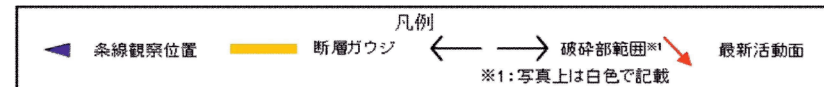
・ H27-B-2 深度134.15~134.23mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN12° E 66° Eである。



H27-B-2 深度134.15~134.23m 最新活動面の走向・傾斜 (No.79) に基づき条線方向 (No.80) を変更

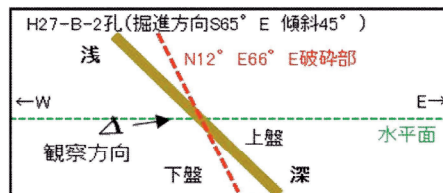
- H27-B-2孔 深度134.15mの断層面の走向・傾斜はN12°E 66°Eであり, 条線観察は下盤側から実施している。

コア写真



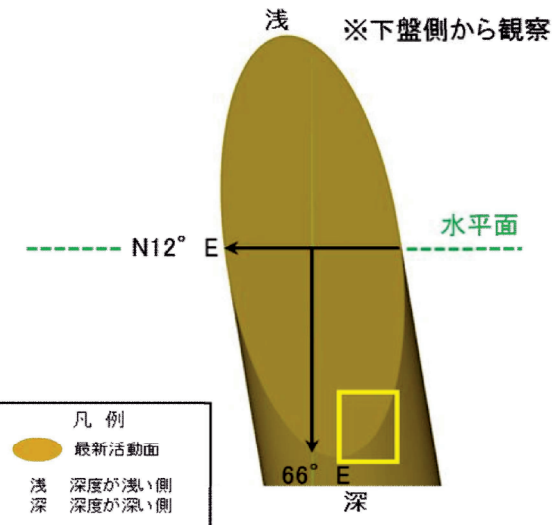
- ボーリングは掘進方向S65° E, 傾斜45° で掘削している。
- 破砕部の走向・傾斜はN12° E66° Eであり, ボーリングと破砕部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- 破砕部は東傾斜であることから, 西側が下盤, 東側が上盤となる。

図1 H27-B-2孔位置平面図(模式図)



- ボーリング(掘進方向S65° E, 傾斜45°)と破砕部(走向・傾斜N12° E66° E)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ボーリング孔の浅い側が下盤, 深い側が上盤となる。

図2 H27-B-2孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図



H27-B-2 深度134.15~134.23m 最新活動面の走向・傾斜 (No.79) に基づき条線方向 (No.80) を変更

- H27-B-2孔 深度134.15mの断層面の走向・傾斜はN12°E 66°Eであり、82Lの条線が認められる。

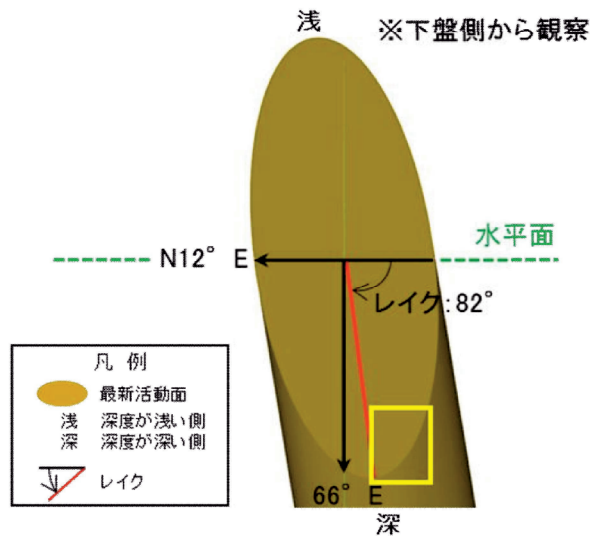
コア写真



凡例

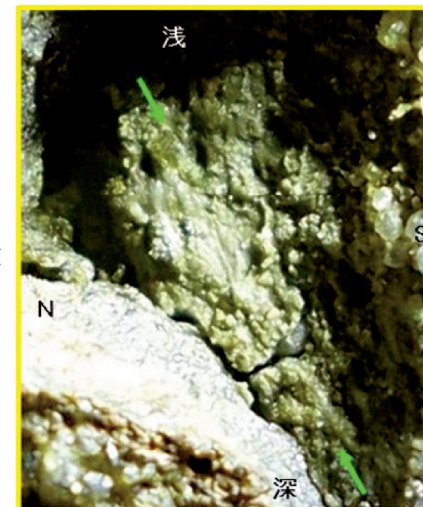
- 条線観察位置 (Blue arrow)
- 断層ガウジ (Yellow bar)
- 破碎部範囲※1 (Red double-headed arrow)
- 最新活動面 (Red arrow)

※1: 写真上は白色で記載



- ・前頁の図3に、計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。
- ・下盤側から最新活動面を見た模式図のため、レイクがR方向に描かれているが、数値は上盤側から見た82Lとなる。

図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図



条線観察位置拡大

凡例

- 条線方向 (Green arrow)